

2024 年度 授業計画(シラバス)

| | | | | | | |
|---|----------|-----------------|---|-------------|-------------------|--------------------------|
| 学 科 | 鍼灸スポーツ学科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義 |
| 科 目 名 | 鍼灸診断学 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 2年生 | | 学期及び曜時限 | 前期 水曜3限 | 教室名 | 502教室 |
| 担 当 教 員 | 寶田 潤 | 実務経験と その関連資格 | 田中整形外科クリニック・西村胃腸科外科クリニックで5年(1996年～1998年・1999年～2002年)リハビリテーション室にて鍼灸師として勤務 はり師きゅう師 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 本講義では、滋慶学園グループが実施している「認定実技試験」について、その方法と内容を解説する。認定実技試験に必要な、医療面接・各種検査法を中心に学び、将来開業時にも必要な技術の基礎を学ぶ。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 1.定期試験:100% | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 東洋療法学校協会編:臨床医学総論 第2版. 医歯薬出版 ずっと使える! 鍼灸臨床BOOK. 滋慶出版/つちや書店 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 医療面接で必要な、相手の目を見て話をすることや、共感することを私生活でも実践すること | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 滋慶認定実技試験は、滋慶学園グループを卒業した学生は最低限これだけの実技能力を有していることを証明することにより、業界からの信頼を得ることを目標に実施しています。将来開業時に、きっちりとした治療を行なえる能力を身につけてもらえるよう一連の流れに沿って授業を展開していきます。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 認定実技試験の目的・内容・方法を習得する | プリント | | 配布プリントを一読しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 滋慶学園グループ認定実技試験の目的と方法 | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 診察法全般を習得する | 教科書 プリント | | 教科書P1～18を一読しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 診察の意義、診察の一般的心得、診察の順序 | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 医療面接の内容、視診法の基礎を習得する | 教科書 プリント | | 教科書P9～19を一読しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 医療面接、視診法① | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 触診法の基礎、感覚検査法の検査意義を習得する | 教科書 プリント | | 教科書P20・21、106～111を一読しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 触診法・感覚検査法① | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 表在性反射、自律神経反射の検査意義、方法を習得する | 教科書 プリント | | 教科書P113～119を一読しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 反射検査① | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|------------------------------|-------------|------------------------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 表在性反射、自律神経反射の検査意義、方法を説明できる | 教科書 プリント | 第5回授業内容を復習し、理解できていない箇所をリストアップしておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 反射検査② | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 上肢の整形外科的検査法の検査意義、方法を習得する | 教科書 プリント | 教科書P145～148を一読しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 徒手による整形外科的検査法① | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 上肢の整形外科的検査法の検査意義、方法を説明できる | 教科書 プリント | 第7回授業内容を復習し、理解できていない箇所をリストアップしておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 徒手による整形外科的検査法② | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 下肢の整形外科的検査法の検査意義、方法を習得する | 教科書 プリント | 第8回授業内容を復習し、理解できていない箇所をリストアップしておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 徒手による整形外科的検査法③ | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 下肢の整形外科的検査法の検査意義、方法を習得する | 教科書 プリント | 第9回授業内容を復習し、理解できていない箇所をリストアップしておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 徒手による整形外科的検査法④ | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 上肢関節可動域検査(ROM)の検査意義、方法を習得する | 教科書 プリント | 鍼灸臨床BOOK P90～94を一読しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 関節可動域検査(ROM)① | | |
| 第12回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 上肢関節可動域検査(ROM)の検査意義、方法を説明できる | 教科書 プリント | 第11回授業内容を復習し、理解できていない箇所をリストアップしておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 関節可動域検査(ROM)② | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 上肢徒手筋力検査の検査意義、方法を習得する | 教科書 プリント | 鍼灸臨床BOOK P78・81～87を一読しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 徒手筋力検査(MMT)① | | |
| 第14回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 上肢徒手筋力検査の検査意義、方法を説明できる | 教科書 プリント | 第13回授業内容を復習し、理解できない箇所をリストアップしておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 徒手筋力検査(MMT)② | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 前期内容の理解を評価する | 教科書 プリント | 前期の範囲を見直すこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | まとめ 評価の確認 | | |